

施工現場の労務管理を紙からスマホへ

 SHO-CASE

株式会社SHO-CASE

✉ info@sho-case.jp

サービスHP



利用申込フォーム



第135回 かわさき起業家オーディション

「かわさき起業家賞」受賞

中小規模工事向け労務安全管理SaaS 「SHO-CASE」



株式会社SHO-CASE

代表取締役

高村 勇介

当社は2020年10月に創業したスタートアップです。代表の私は、以前内装工事や展示会・イベント会場のブースなどを手がけるディスプレイ業界の大手企業に所属し、現場監督を務めていました。この業界の特徴は、短納期の突貫工事が多く、数週間・数日で仕上げなければならない案件が多いことです。現場監督を担当していた頃は業務をまわすだけで手いっぱいでした。大型の展示会やショールームなどの華やかな現場もあり、本来はものづくりのやりがいを存分に感じられるはずの業界です。しかしモノづくり以外の業務で課題が多く、それを楽しめる余裕がないことに、やりきれない思いを抱えていました。

現場の仕事を圧迫しているその要因の一つが「書類作成」でした。業界のDXが進んでおらず、いまだに紙でのやりとりが主流となっています。職人は現場ごとに毎回直筆で労務安全書類を記載しなければならず、その対応によって残業や長時間労働が発生しているのです。

大規模な新築工事現場は事務員のサポートがありますが、ディスプレイ業界は中小規模の工事がほとんどなので、現場監督が一人で書類管理の運用をしなければならない現実があります。こうした状況を何とかしたいと考えた私は、業界にイノベーションを起こしたいと感じ起業を決意しました。

「現場で働く人の価値を最大化」し、「バイタリティ溢れる建設業界」になることを目指します。

■受賞したビジネスに至った経緯

20歳でディスプレイ業界に入った私は、25歳で独立し、起業するまでの2年半ほどオリンピックなどの様々な業務経験をさせていただきました。いざ独立すると、経費の処理など会社員の頃にはなかった業務が発生します。それをきっかけに、法人化も意識するようになっていきました。

そんな折、たまたま目にしたのが、職人が不足している建設現場と仕事を探している職人を結びつけるマッチングサービスのテレビCMです。当時はまだそういう建設系のテックサービスが少なかったので興味をひかれて調べたところ、創業者の方はプログラミングを学び、自らそのサービスを立ち上げたということが分かりました。「プログラミングを学ばばこんな仕組みがつかれるのか」と驚き、さっそくスクールに申し込み、ゼロからプログラミングを学び始めました。

ディスプレイ業界の現場には「書類作成」の課題があります。短納期で現場が狭い内装や展示会の現場では、現場事務所を置くこともできず、たくさん現場をこなしながら、毎回「労務安全書類」を作成しなければなりません。しかも、いまだに紙で運用されているので直筆で書き込むことが義務付けられている。これが現場監督や現場で働く人の大きな負担になっていたため、何とかしたいと考えていました。そこでスクールで学んだプログラミングの知識を活かして、ITの力でこの課題の解決に挑むことになりました。

■サービスの特徴

「SHO-CASE」は、現場の労務安全書類の管理業務をスマートフォンで簡単にすることができるサービスです。先述のように、職人は現場に入る前に緊急連絡先や社会保険への加入情報などの約20項目を「労務安全書類」へ控える必要があります。現場ごとに毎回同じ内容を自ら書類に書き込んでおり、この運用と管理の手間が残業や長時間労働の原因の一つになっていました。

「SHO-CASE」は、スマートフォンに掲示させたQRコードをスキャンすることで入退場を管理することが可能で、前回登録したデータを使いまわして送信できることが特徴です。現場の人間や職人の手間を大幅に減らすことができます。

近年は施工管理システムという優れたサービスもありますが、ほとんどの対象顧客は大手ゼネコンが中心です。大規模工事の管理には向いていますが、ディスプレイ業界がやるような中小規模の工事では使うタイミングが少ない機能も多く、現場のかゆいところに手が届きにくいところが難点になっています。また、そういうサービスはパソコンでの作業を想定しているので現場の職人にはなじみません。その点、スマートフォンのシンプルな操作で完結できる「SHO-CASE」は、現場事務所を設置できない中小規模の現場に特化した他社にはない強みを持つサービスであるといえます。

■現状の課題

業界全体が高齢化しており、紙での管理に慣れ親しんでいます。そのためスマートフォンを使った新しいサービスを浸透させることは簡単ではありません。しかし、一度「SHO-CASE」でアカウントを登録いただければ、2回目以降の操作は現場でQRコードをスキャンするだけです。ゆえにまずは経験していただくことがサービス拡大への第一歩です。そのため、導入初日は必ず我々 SHO-CASEのスタッフが現場に行き、現場の一人ひとりに使い方を丁寧に教えていくというやり方で進めています。

まずは顧客から信頼を獲得し、徐々に実績を積み上げていくことが最重要事項です。営業面や開発面での課題はまだありますが、課題が困難であればあるほど、それが達成されたときのワクワク感の方が上回るときがあります。毎日が試行錯誤しながらの日々ですが、「現場で働く人の価値を最大化する」ために日々尽力しています。

■今後の展開

現在は、現場の労務安全管理に特化したサービスを展開していますが、いずれは範囲を拡大し、業務タスクの多い工事着工前と現場中の労務管理以外の業務を一気通貫で解決できるようなソリューションにしていきたいと思っています。

そしてゆくゆくは、業界が抱える課題を上流からも解決していくことが目標です。

私たちは「現場」の業務改善に取り組んでいますが、いくら現場のフローを改善しても、上流工程の「企画・設計」や「計画・発注」の段階で問題が起こると、そのツケは結局現場に回ってきてしまいます。事業計画や土地探しなどの「企画」、現地調査や見積もりを行う「計画・発注」、実際に工事をする「現場」、竣工後の「維持管理」という業務フローに対し、上流のフェーズが抱える課題も解決していかなければなりません。

そこへ向けた中長期的な戦略として、これから目指す目標を2つのステージに分けています。ステージ1では、労務安全管理における紙運用の課題を解決し、一定数の顧客を獲得することが目標です。そしてステージ2では、「職人さんが使ってうれしい仕組み」をつくることで、顧客拡大を目指します。

現在共に会社を支えてくれているスタッフは業務委託を含めて11名いますが、初期の段階から一緒にやってきてくれた彼らのためにも、いずれはIPOを果たし「上場会社で働いている」と胸を張れるような組織にしたいという想いもあります。

私たちは一緒に業界の変革へ挑む仲間を募集しています。現場での経験は、業界にイノベーションを起こすポテンシャルだと思っています。ぜひそのポテンシャルをSHO-CASEで一緒に発揮したいという方がいたら、遠慮なくご連絡ください。

■エントリーを検討中の方へ一言

今回オーディションに応募したのは、営業活動の一環でもありました。受賞をきっかけに見込み顧客のネットワークを広げたいと考えていた私たちは、川崎市産業振興財団の皆さまからの全面的なバックアップのおかげで、数多くのつながりを獲得することができました。

本当にありがたく、チャレンジして良かったと思っています。

かわさき起業家オーディションはオペレーションがしっかりしていて、スタートアップ企業へのフォローが手厚いと感じました。そういう意味でも、ビジネスコンテストに出たことがない方や、初めて挑戦される方にはおすすめです。ぜひ応募してみてください。いかがでしょうか。

会社名：株式会社SHO-CASE

住所：〒231-0015

神奈川県横浜市中央区尾上町1-6 ICON関内

YOXO BOX OFFICE 3F

電話番号：☎080-4687-2272

ホームページ：https://www.sho-case.net/